

R2年7月豪雨

210

復旧までの軌跡

大分河川国道事務所



豪雨のはじまり

法面が崩壊し土砂が堆積した国道210号

降雨の概要

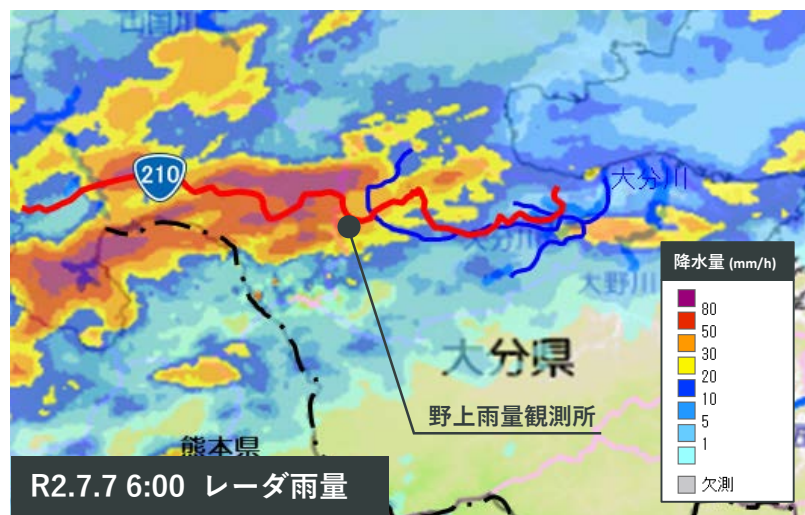
令和2年7月6日(月)から7月8日(水)未明にかけ、梅雨前線の活発な活動により「線状降水帯」が形成。県内は激しい雨に見舞われた。



県内6万人に 避難指示・勧告

線状降水帯

次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50～300km程度、幅20～50km程度の強い降水をとまなう雨域。

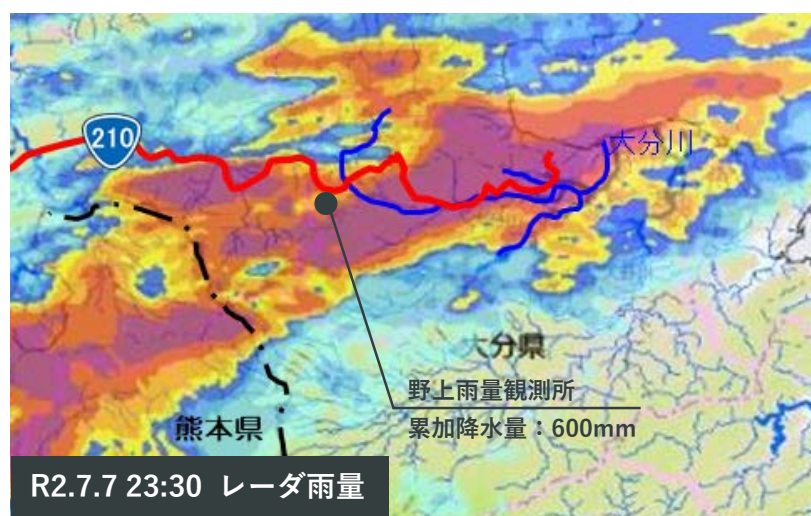


国道210号近傍の様子

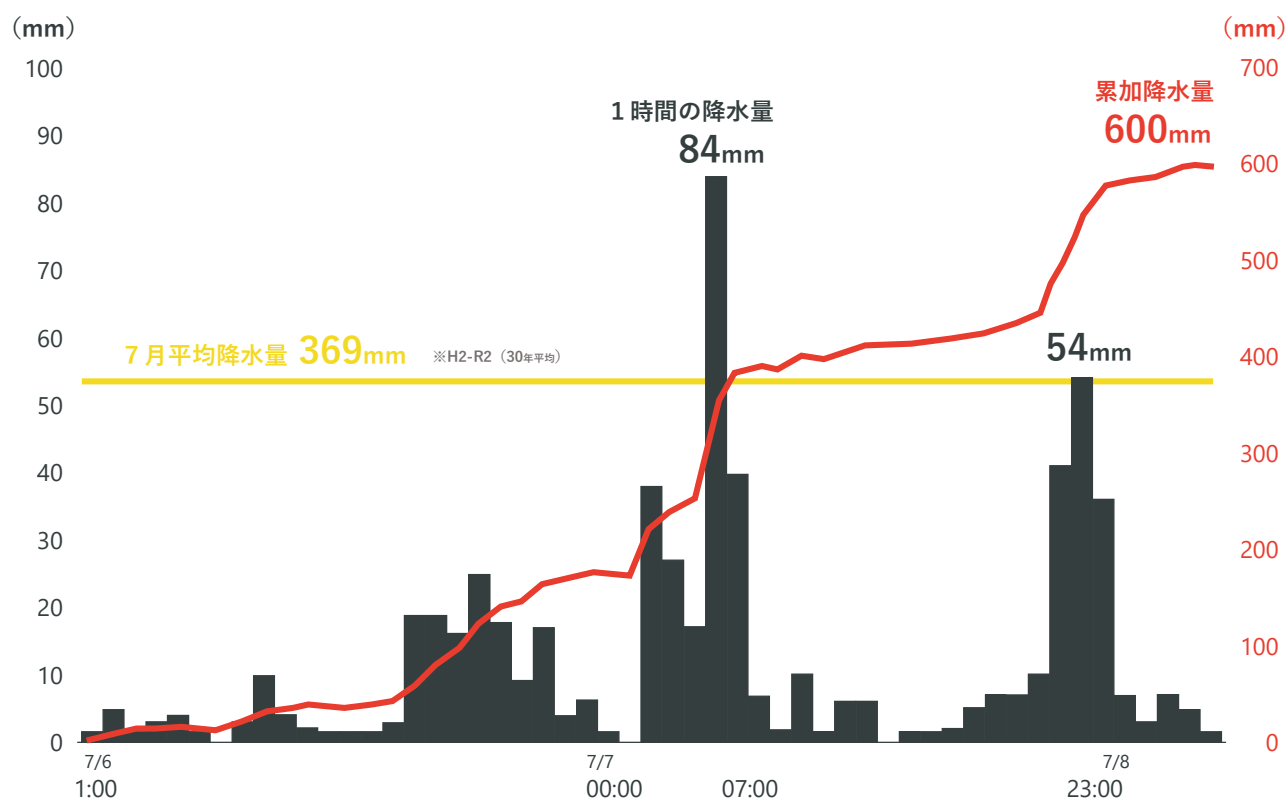
国道210号近傍の野上雨量観測所では7月7日6時～7時の降水量が84mm。また累加降水量は7月平均降雨量の約1.6倍の600mmの雨がたった2日間で降るといった記録的な大雨であった。

令和2年7月豪雨

今回の大雨では、線状降水帯が複数の地域で集中的に長時間継続した事などにより、多くの河川で氾濫や、また、土砂災害も多発し極めて特異な豪雨となった。このように、雨の降り方が局地化、集中化、激甚化する中、今回のような大雨は全国どこでも発生することから、貴重な教訓を後世に伝承することを目的に「令和2年7月豪雨」と名称を定めた。
(気象庁発表)



令和2年7月豪雨時の降水量：野上雨量観測所



被災の状況

ひ た あまがせまちあかいわ
大分県日田市天瀬町赤岩地区 (61k200)

国道210号 被災状況

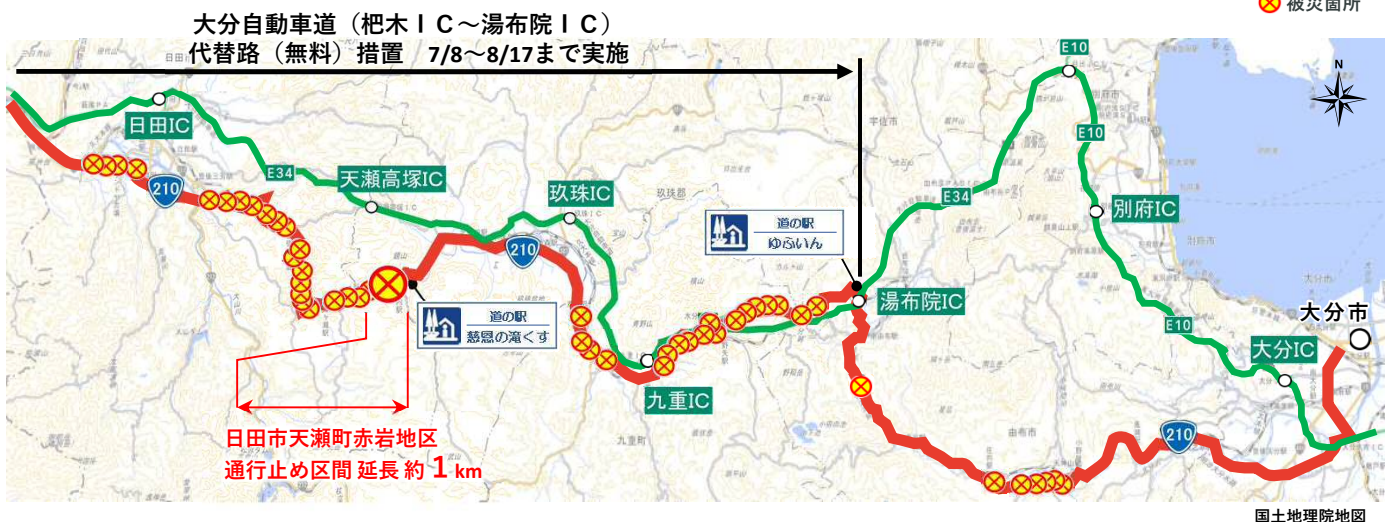
国道210号では豪雨により法面崩壊・道路の陥没等、**50箇所以上**の被災を確認。

一時、全長約50kmにわたり通行止めを実施。
なかでも日田市天瀬町赤岩地区では道路が崩壊し、1ヶ月以上にわたって**全面通行止め**になるなど大きな被害となった。



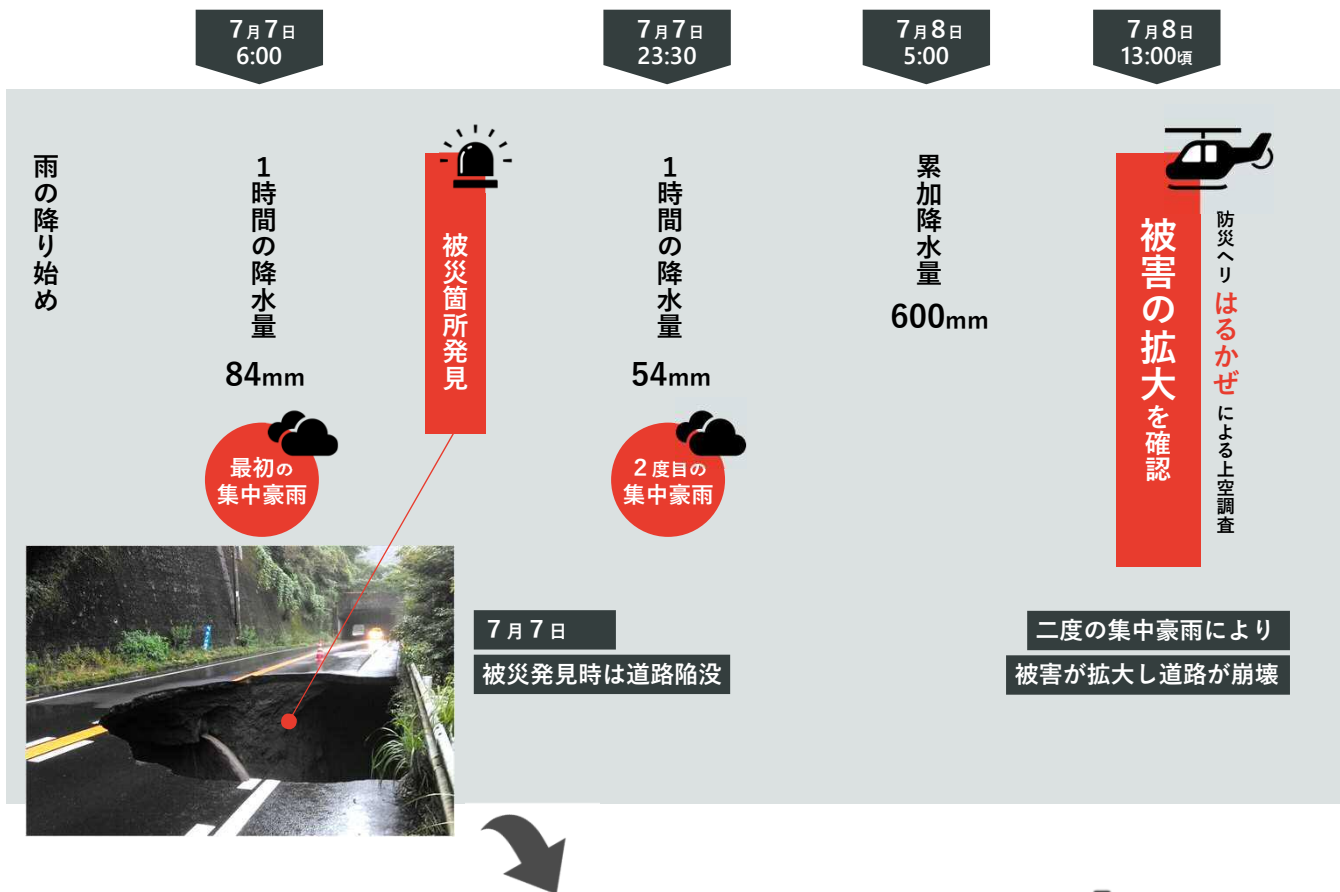
大分県九重町 (86K300) = 7月7日撮影

国道210号 被災箇所



日田市天瀬町 赤岩地区

二度にわたる豪雨で被害が拡大し、道路が大規模崩壊した赤岩地区。
道の駅「慈恩の滝」から「新市の村橋」までの区間約1kmが
41日間全面通行止となった。



令和2年7月9日撮影



豪雨のはじまり

被災の状況

防災士が「一」
TEC-DOCTOR

防災室にて

復旧作業

復旧完了

委員会・広報

視察対応等

職員のがんばり



TEC-DOCTOR 防災エキスパート

赤岩地区の被災現場を調査するTEC-DOCTOR

T EC-DOCTOR派遣

現地の被災状況の調査、被災のメカニズムを把握し今後の復旧方針など助言を受けるため、被災直後より学識経験者に協力をいただいた。

TEC-DOCTOR テック・ドクター

九州管内の河川・道路・砂防施設等が被災し、復旧等で高度な技術や専門的な知識を必要とする場合に、学識経験者を被災地へ派遣し、技術的な指導や助言を受けるもの。



法面崩壊現場の状況を確認



河川氾濫で護岸が流出した現場を調査

現地調査後

事務所防災室で被災の状況を報告する
TEC-DOCTOR。復旧に向けた対応方
針について検討する。



豪雨のはじまり

被災の状況

防災エキスパート
TEC-DOCTOR

防災室にて

復旧作業

復旧完了

委員会・広報

視察対応等

職員のがんばり

防災エキスパートによる支援

災害直後より事務所（防災室）に迅速に出
動頂き、今後の対応方針等について助言。
緊急開催した「災害復旧対策検討委員会」
でも委員として参加し、的確に助言。

防災エキスパート

地震、津波、風水害等による大規模な災害が発生し
た場合に、道路や河川などの公共土木施設等の管理
者からの要請に基づき、災害復旧事務の経験や専門
的な知識を有する防災エキスパート技術者を災害現
場に派遣することで公共土木施設等の管理者を支援
するもの。



防災室にて

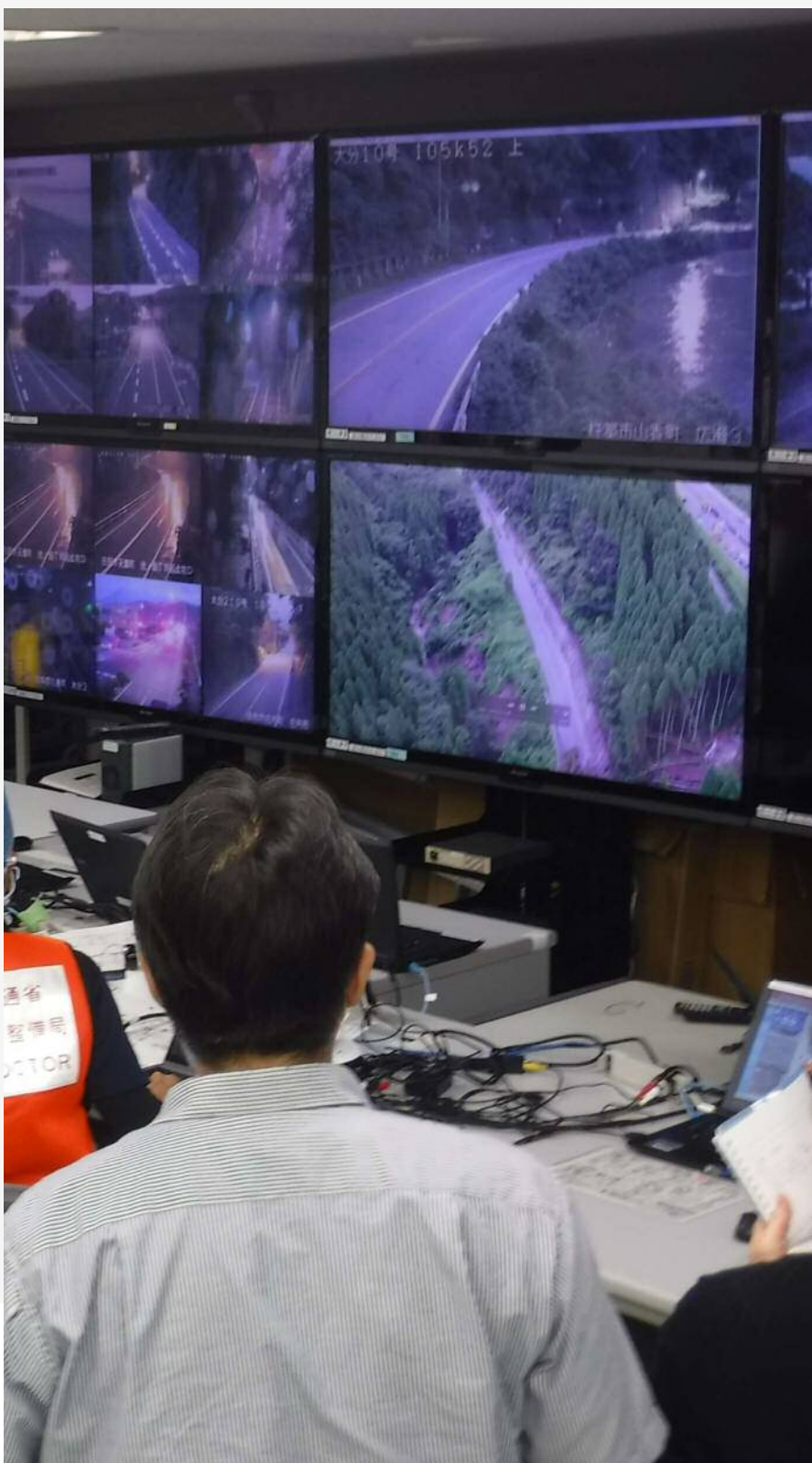
大分河川国道事務所の一室－防災室－
早期の復旧作業に向け業務に取り組む職員の姿。



情報共有会議

各種打合せ

赤岩定点撮影



- 1 カメラを設置し被災現場の状況をリアルタイムに確認
- 2 混合事務所の特長を活かし、河川担当副所長と河川内工事における留意点等を議論
- 3 九州地方整備局職員を交え、応急復旧工法を検討
- 4 毎日定時に開催される九州地方整備局との防災連絡会議では復旧の進捗状況などを報告

豪雨のはじまり

被災の状況

防災支援
TEC-DOCTOR

防災室にて

復旧作業

復旧完了

委員会・広報

視察対応等

職員のがんばり

復旧作業

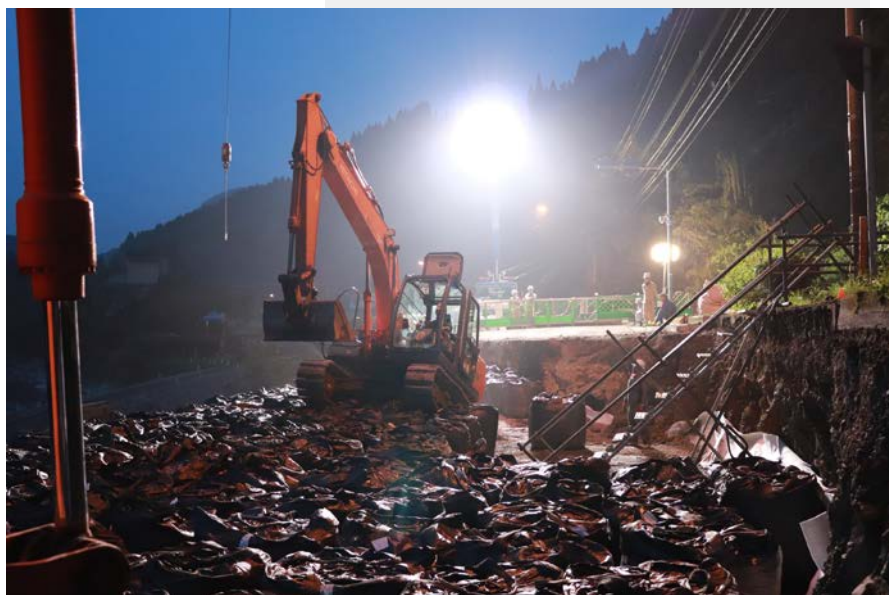
クレーンのオペレーターへ合図を送りながら大型土のうを据付ける技術者

早期復旧を目指して

観光名所（慈恩の滝、道の駅など）に近く、
また地域住民の生活に欠かせない道路である
ことから早期復旧が望まれた。

復旧作業は大勢の技術者が24時間体制で行った。

24時間体制の工事現場を支える照明車。
午後7時。職員により照明車に灯がとも
され、被災現場を明るく照らす。



災害復旧の 工程

復旧にあたって被災箇所への水の勢いを抑制するため川の流れを変える瀬替えが必要であること、また、梅雨期間中であるため雨による河川の増水を想定し技術者の安全性・二次災害の防止等を考慮する必要があった。

被災箇所の早期復旧

PROCESS

01

河川内進入路設置

PROCESS

02

瀬替え

PROCESS

03

施工ヤード造成

PROCESS

04

路体基礎部
(袋詰玉石敷設)

PROCESS

05

路体盛土
(大型土のう据付)

PROCESS

06

路床盛土・舗装

災害復旧現場の作業



被災箇所へ直接当たる水の勢いを抑制するため、根固めブロックを投入する大型クレーン。延べ1,000個以上のブロックを投入し河川内進入路の足がかりを作った。

PROCESS

01

河川内進入路設置



July 18

被災箇所の損傷がこれ以上広がらないよう1,000個以上の根固ブロックを投入し水の勢いを緩和。あわせて河川内への進入路を設置。



PROCESS

02

瀬替え



July 19

一時的に川の流れを変えて、被災箇所への水の勢いを抑制。安全に復旧作業を行う準備を整える。



PROCESS

03

施工ヤード造成



July 22

復旧に必要な資材の搬入やクレーン車などの重機が運用可能な作業スペースを河川内に造成。これにより本格的な復旧作業へと入っていく。





PROCESS

04 路体基礎部 (袋詰玉石敷設)



July 28

河川の増水によって洗掘された路体基礎部の復旧には、短期間で施工が可能な袋詰玉石を採用。



PROCESS

05 路体盛土 (大型土のう据付)



August 8

早期の交通開放のため、路体の造成には施工性のよい大型土のうを採用。複数のクレーンを用い作業工程を短縮。



PROCESS

06 路床盛土・舗装



August 12

路床盛土、路盤を施工し、いよいよ最後の工程となる舗装工。早期復旧にむけて拍車がかかる。

豪雨のはじまり

被災の状況

防災 工機ポート
TEC-DOCTOR

防災室にて

復旧作業

復旧完了

委員会・広報

視察対応等

職員のがんばり



- 1 早期復旧を目指し細かく調整しながら作業が進む
- 2 湿度の高い猛暑の中、復旧にとりくむ技術者
- 3 崩壊現場での作業は常に細心の注意が求められる
- 4 24時間体制の復旧作業。夜間は照明を頼りに作業が行われる
- 5 復旧作業を完了させた技術者

早期復旧を目指した技術者

大分県を含む九州北部地方の梅雨明けは令和2年7月30日であり、平年より11日、前年より5日遅かった。被災後も長雨が続き、復旧作業の足かせとなっていた。

梅雨明け後は猛暑が続ぎ、日田市では連日35度以上を記録し、真夏の太陽の照りつける中、過酷な復旧工事となった。



復旧完了

通行止めが解除された国道210号

令和2年8月17日。豪雨発生から41日間で応急復旧は完了。
当日朝7時から片側交互通行で
開通できる見込みとなった。





令和 2 年

8月17日（月）午前 7 時

規制解除

国土交通省のパトロール車を先頭に
通行止め解除。大分県内の一般国道
210号が全て通行可能となった。



通勤時間帯の開通で多くの車両が行き交う



大型車両も問題なく通行

規制解除の注目度

規制解除については各報道機関
で取り上げられ、地域の人々か
ら喜びの声が聞かれた。

- ・ 慈恩の滝と桜滝に行くためによく使っていた。すごくうれしい。
(西日本新聞 8月18日(火))
- ・ 福岡県からの客足回復に期待している。地元の人も買い物や通院で通るのでありがたい。
(毎日新聞 8月18日(火))



8月17日NHK放送



国道210号 災害復旧対策検討委員会

早期復旧を目指して

令和2年7月豪雨により甚大な被災が生じた国道210号。その復旧にあたり、全体の被害状況等を踏まえ、特に緊急性・重要度の高い被災箇所に対して速やかに対策を行う必要があった。そこで有識者の方々から専門的な知見を求めることを目的に対策検討委員会を設立。

▶ 第1回 令和2年7月12日

▶ 第2回 令和2年8月18日

検討委員会メンバー

九州大学大学院 三谷 泰浩 教授

大分大学 鶴成 悦久 准教授

防災エキスパート 春田 義信 氏

大分河川国道事務所長 樋口 尚弘

報道機関へのブリーフィング

国道210号の被災状況及び復旧に向けた内容を、地域の方々へ報道機関を通じ速やかに情報提供を行った。





国土交通省

広報のとりくみ

災害発生直後から、Twitter等を活用して積極的な情報発信を展開。

全国的にも関心を集め、復旧に携わる関係者のモチベーションアップにも寄与。

フォロー

赤岩
ふっきゅう
ロゴ



豪雨のはじまり

被災の状況

防災士が
TEC-DOCTOR

防災室にて

復旧作業

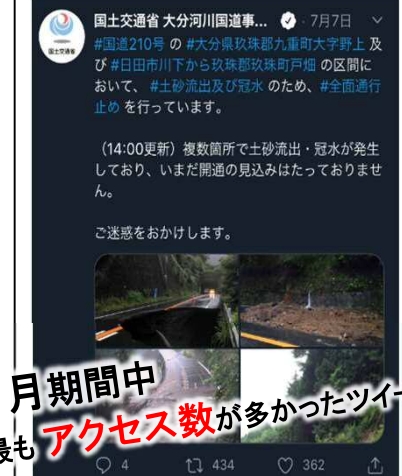
復旧完了

委員会・広報

視察対応等

職員のがんばり

日々更新による進捗の見える化 #災害復旧現場の見える化



7月期間中
最もアクセス数が多かったツイート

約12万アクセス



動画を用いたツイート



July 16

内閣府 防災担当大臣・政務官 視察



大分河川国道事務所長による被災状況・復旧等に関する説明を受けた後、河川の流れを緩和する根固めブロックを投入する状況を確認した。



July 20

自民党 水害対策本部 視察



July 23

自民党 参議院議員 視察



国道210号 被災現場視察状況

注目される被災箇所・復旧作業

August 31

参議院 国土交通委員会 視察



被災状況の説明



原田日田市長による早期復旧のお願い

豪雨のはじまり

被災の状況

防災 Eメール
TEC-DOCTOR

地元からの感謝

●国道210号全面通行止め解除受け、地元首長から感謝のお言葉を頂きました。

原田啓介
日田市長



宿利政和
玖珠町長



日野康志
九重町長



防災室にて

復旧作業

復旧完了

委員会・広報

視察対応等

職員のがんばり



大分河川国道事務所職員

復旧現場における工事監督等

事務所職員も24時間体制で現場等で復旧状況の監督等を実施。



河川内での施工状況の確認



次の施工について指示



交通誘導に走る職員



現場休憩所での資料作成



の活動状況

豪雨のはじまり

被災の状況

防災「パイ」ート
TEC-DOCTOR

防災室にて

復旧作業

復旧完了

委員会・広報

視察対応等

職員のがんばり



安全施工について指示



夜間施工の監督

他 事務所との協力体制

復旧状況の監督には大分河川国道事務所だけでなく九州地方整備局道路部及び佐伯河川国道事務所から職員の派遣を受けることで24時間体制で現場の復旧状況の監督等を実施。



九州地方整備局道路部職員との打合せ

国土交通省 九州地方整備局
大分河川国道事務所



〒870-0820 大分県大分市西大道1丁目1番7 1号
TEL : 097-544-4167 FAX : 097-546-1326

HP : <http://www.qsr.mlit.go.jp/oita/>

Twitter : https://twitter.com/mlit_oita

